

ULVAC

株式会社 アルバック

決算説明資料

2022年度 第1四半期 2022年7月~2022年9月

2022年11月11日

証券コード：6728

Breakthrough 2022

将来見通しに関する記述についての注意事項

本資料に記載の業績見通しならびに将来予測は、現在入手可能な情報に基づき作成されたものです。

世界経済情勢、半導体・電子部品・FPD・原材料などの市況、設備投資の動向、急速な技術革新への対応、為替レートの変動など様々な要因により、実際の業績・成果等はこれらの見通し・将来予測と大きく異なる可能性があることをご承知おきください。



1. 受注高は前年同期比、半導体電子が増加(+37%)、FPDの反動減を補って引き続き高水準

- 電子 : パワーデバイスやAR/VR用μOLED等が好調で大幅に増加
- 半導体 : ロジック顧客拡大もあり堅調
- FPD : LCD投資の反動減あるも、OLED投資継続

2. 売上高・営業利益ともに前年同期を上回る

【単位：億円】	FY21 1Q	FY22 1Q	前年同期比
受注高	663	666	+1%
売上高	474	562	+18%
営業利益	36	51	+43%

本日説明するポイントは、

1Qの受注高は、前年同期と比べると、半導体電子が37%増加し、

FPDの前年比反動減を補って、666億円と引き続き高水準となりました。

特に中国・日本でのパワーデバイス関連の投資やAR/VR用のμOLED投資が活発で、電子関連の受注が大幅に増加しました。

半導体関連もロジック分野の新しい顧客が増えたこともあり堅調に推移しました。

FPDはLCD投資の反動減はありましたが、OLED投資は継続しています。

売上高は562億円で前年同期比18%増、営業利益は51億円で43%増と、

いずれも前年同期を上回りました。

2022年度第1四半期業績概要

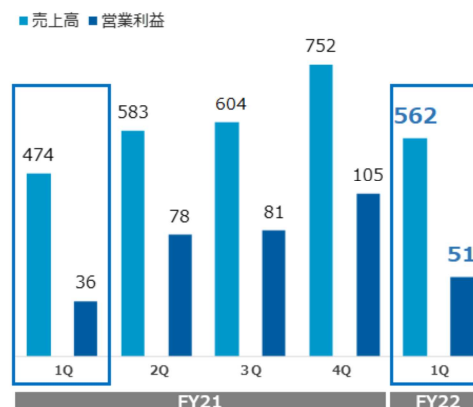
ULVAC

- 受注高はFPDの前年比反動減をパワーデバイスなど電子関連やコンポーネントの伸びが補い高水準
- 売上高・利益（率）ともに前年同期を上回る

【単位：億円】	2021年度	2022年度		前年同期比
	1Q	実績	1Q	
受注高	663	666	+3	+1%
売上高	474	562	+88	+18%
売上総利益	132	165	+32	+24%
率	27.9%	29.3%	+1.4pt	-
販管費	97	113	+17	+17%
営業利益	36	51	+16	+43%
率	7.5%	9.1%	+1.6pt	-
経常利益	35	52	+17	+49%
率	7.4%	9.3%	+1.9pt	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	22	41	+18	+82%
率	4.7%	7.2%	+2.5pt	-

売上高と営業利益の推移

【単位：億円】



© 2022 ULVAC, Inc. | Confidential and Proprietary Information

Breakthrough 2022

4

1Qの受注高は、前年からのFPDの反動減を、パワーデバイスなど電子関連やコンポーネントの伸びが補って、666億円と引き続き高水準となりました。

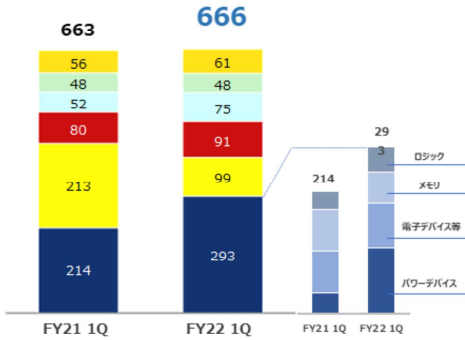
売上高は、前年の474億円から562億円に88億円増加、営業利益も36億円から51億円に16億円増加、当期純利益も22億円から41億円に18億円増加、いずれも前年同期を上回りました。

受注・売上高ともに前年を上回る

- 受注高はFPDの前年比反動減をパワーデバイスなど電子関連やコンポーネントの伸びが補い高水準
- 売上高は、部品長納期化等の課題に取り組みながら全品目で前年同期を上回る

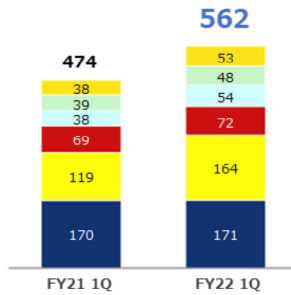
受注高 [単位：億円]

■ 半導体及び電子部品製造装置 ■ コンポーネント ■ 材料
■ FPD製造装置 ■ 一般産業用装置 ■ その他



売上高 [単位：億円]

■ 半導体及び電子部品製造装置 ■ コンポーネント ■ 材料
■ FPD製造装置 ■ 一般産業用装置 ■ その他



半導体・電子

半導体

ロジック顧客拡大もあり堅調

電子部品

パワーデバイス：中国大口案件、日本の投資増加などより半導体・電子の1/3規模に
 オプトデバイス：AR/VR用μOLED投資活発化（上期）

FPD

前年度に活発化したITパネル用LCD投資は反動減
 OLED投資継続

コンポーネント

部品長納期化に伴う前倒し受注もあり好調

左のグラフが受注高の前年同期との比較になります。

半導体電子が214億円から293億円に大きく伸びています。

メモリ関連は足下、投資抑制気味となっており、下期に投資がずれ込む案件も出ていますが、ロジックはアナログ分野の新しい顧客での受注もあり、前年同期比増加しています。

パワーデバイスは、中国での大口案件の受注に加え、日本でも投資が増加しており、半導体電子の約3分の1規模に増加しました。

また、足下、AR/VR用μOLED投資が日本で活発化、電子デバイス全体で高水準の受注が継続しました。

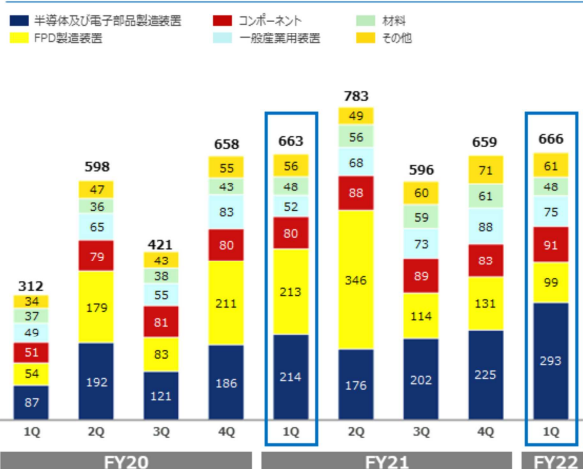
コンポーネントは、部品長納期化が続く中、前倒し受注もあり好調に推移しました。

FPDは、前年度に活発化したタブレットやPC向けITパネル用LCD投資が落ち着き、その反動減で減少しましたが、

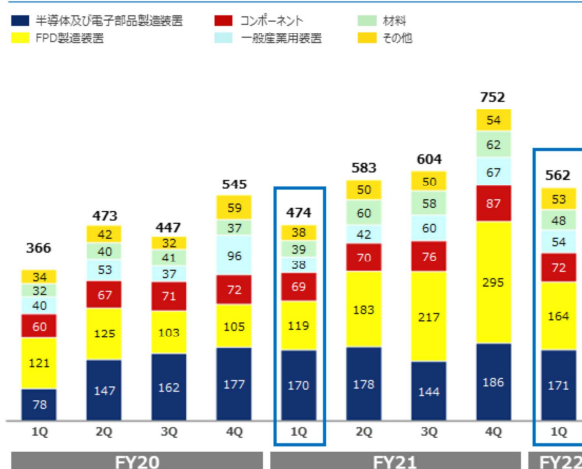
半導体電子やコンポーネントが補い、前年同期並みの受注となりました。

売上高は、部品長納期化の影響もあり、半導体電子などが高い受注高水準の割に低めとなっていますが、全品目で前年同期を上回りました。

受注高 【単位：億円】



売上高 【単位：億円】



こちらは、受注高、売上高の四半期推移となっています。

売上高については、もともと今1Qに検収予定だった案件が顧客からの要請で早めの検収となり前4Qの売上計上となったこともあり、低い水準となっていますが、2Q以降は、高水準の受注高に支えられ、650億円前後の売上高となる見込みで、2,500億円の年間売上計画に変更はありません。

利益率は前年同期比改善

- 利益率は売上高の前四半期比減少により低下するも、前年同期比改善

売上総利益率 【単位：億円、%】



営業利益率 【単位：億円、%】



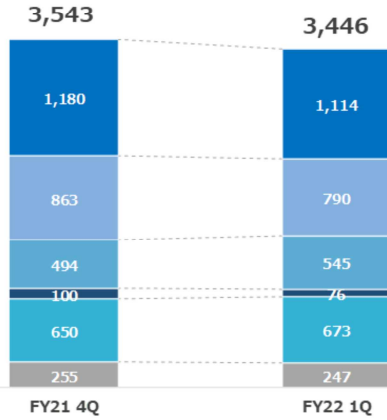
前年度4Qと比較すると、売上高が752億円から562億円に190億円減少したため、売上総利益率・営業利益率は低下しましたが、前年同期と比較すると改善しています。

2Q以降は、①売上高増加と②半導体電子の売上増加によるミックス改善、③部品長納期問題も下期には徐々に緩和してくるものと思われ、モノづくり力強化の取組みの効果が徐々に回復することなどにより、利益率目標達成を目指します。

連結貸借対照表

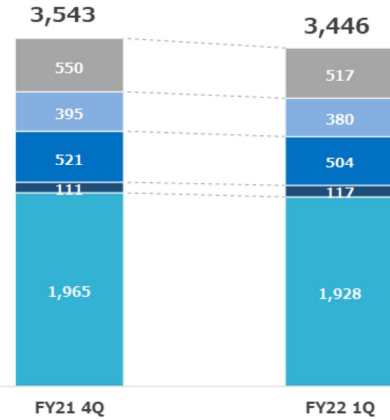
資産 【単位：億円】

- 現金・預金
- 受取手形・売掛金
- 棚卸資産
- その他の流動資産
- 有形固定資産
- 投資有価証券 他



負債・純資産 【単位：億円】

- 支払手形・買掛金
- 有利子負債
- その他流動負債
- その他固定負債
- 純資産



※前受金 (契約負債)
248億円

連結貸借対照表の現預金については、FPD等の前受金が248億円入っており、また、事業ポートフォリオがFPDから半導体電子にウエイトシフトする中で運転資金需要が増加することや売上増加への備え、不透明な世界情勢への備えといった観点で厚めとなっています。

市場環境と成長ドライバー

ULVAC

品目	市場環境・成長ドライバー
半導体	メモリは足下、投資抑制 米国の中国半導体規制による不透明感あるも、引き続き中長期的な受注拡大に注力中 ロジック：MHM※以外の工程での受注や新規顧客受注で成長の芽が増加
電子	パワーデバイス：中国SiC大型受注や日本の投資増加で大幅増加 オプトデバイス：足元、AR/VR用μOLEDの大型案件受注
FPD	ITパネル用LCD：前年比反動減となるが投資継続 ITパネル用大型基板OLED：量産開発中 EV用バッテリー：安全性向上・大容量小型化のため量産開発中（両面蒸着巻取り装置）
コンポーネント マテリアル カスタマーサポート	半導体電子等 投資活発化

※EUV露光装置に対応したメタルハードマスク（MHM）工程



半導体用
スパッタリング装置



SiCパワーデバイス用
イオン注入装置

© 2022 ULVAC, Inc. | Confidential and Proprietary Information

Breakthrough 2022

9

市場環境と当社の成長ドライバーについて説明します。

半導体メモリは、足下、投資抑制気味で、一部投資の下期へのずれ込みが見られますが、新しい工程参入のチャンスも広がっており、シェアアップに向けた取り組みを継続しています。

米国の中国半導体規制強化の動きについては、確認・精査中ですが、当社は既存の取引は同業他社に比べるとそれほど大きくありませんが、新たに期待していた中国の新規取引拡大に不透明感が出てきています。

ロジックについては、MHM工程に加え、金額はまだそれほど大きくありませんが、MHM以外の工程でも受注でき、来年度以降の受注増加への貢献が期待できます。また、アナログ半導体メーカーとの新規取引も開始するなど、中長期的な受注拡大につながる成長の芽が育ちつつあります。

パワーデバイスは、中国のSiC大型受注に加え、日本のパワーデバイス各社の投資も増加しており、受注が大きく増えました。AR/VR用μOLEDの大型投資の受注もあり電子デバイス関連の受注も高水準です。

FPDは、ITパネル用LCD投資の反動減で今年は端境期となりますが、ITパネル用のG8.5クラスの大型基板OLEDやEVバッテリーの大容量小型化のための量産開発が進んでおり、来年度以降は、受注・売上の回復を見込んでいます。

説明は以上です。

四半期連結業績推移

【単位：億円】	2021年度				2022年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前年同期比	
						増減額	増減率
受注高	663	783	596	659	666	+3	+1%
売上高	474	583	604	752	562	+88	+18%
売上総利益	132	189	186	230	165	+32	+24%
率	27.9%	32.4%	30.8%	30.6%	29.3%	+1.4pt	-
販管費	97	110	105	125	113	+17	+17%
営業利益	36	78	81	105	51	+16	+43%
率	7.5%	13.5%	13.5%	14.0%	9.1%	+1.6pt	-
経常利益	35	85	84	118	52	+17	+49%
率	7.4%	14.6%	13.9%	15.6%	9.3%	+1.9pt	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	22	59	56	64	41	+18	+82%
率	4.7%	10.1%	9.3%	8.6%	7.2%	+2.5pt	-

さまざまな業界・用途で貢献する アルバックの真空技術



ULVAC